

# 持続可能な社会の構築に向けて、よりよい衣生活、住生活を実践できる生徒の育成

—問題を発見し、課題を設定する学習活動を重視して—

## Ⅷ 第7分科会 衣住生活

### 1 はじめに

これからの子供たちは、持続可能な社会の構築や少子高齢化社会の進展、予想を超えた自然災害の発生、家族・家庭生活の多様性等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。しかし、家族や地域社会の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分でないなどといった課題も明らかになっている。さらに近年は、コロナ禍でリモートワークやオンライン学習が推奨されるなどの生活様式が求められるようになり、衣生活、住生活の新たな課題がみられるようになった。

こうしたことを踏まえ、本研究では持続可能な社会の構築に向けて、よりよい衣生活、住生活を実践できる生徒の育成を目指し、研究主題を設定した。

### 2 研究のねらい

#### (1) 生徒の実態

2020年7月に都内10校2,395人に衣生活、住生活の授業で扱う16の語句について、「聞いたことがある言葉」「説明できる言葉」「もっと詳しく知りたい言葉」を問うアンケート調査を行った(図1)。「持続可能な社会」「衣服計画」「住空間」などの語句は、聞いたことがあっても説明できる割合は低く、もっと詳しく知りたいという割合も30%以下であった。この結果から説明ができる語句は少なく、知りたいという意欲も低いことがわかった。また、説明できると答えた割合の高い語句の一つに「防災」(図2)があったが、表1のように実践していることを問うアンケート結果は比較的低かった。

#### 【アンケート調査した16の語句】

①持続可能な社会 ②SDGs ③3R ④T. P. O. ⑤和服 ⑥コーディネート ⑦衣服計画 ⑧既製服 ⑨衣服の手入れ ⑩家庭内事故 ⑪住空間 ⑫日本の伝統的な住まい ⑬結露 ⑭バリアフリー ⑮防災 ⑯少子高齢化

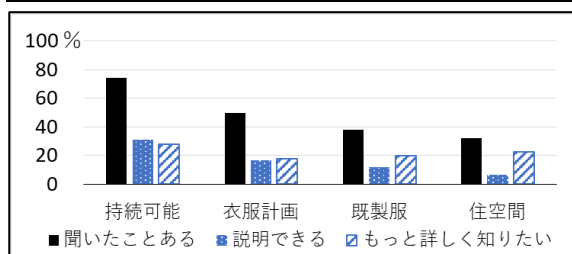


図1 衣生活、住生活の授業で扱う語句に関するアンケート結果

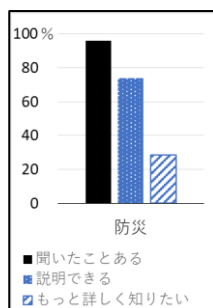


図2 アンケート結果「防災」

質問内容	はい	いいえ
災害に対する備えはありますか	69.1%	30.9%
家族と防災のことに話をしてもらっていますか	39.4%	60.6%
地域の防災訓練に参加していますか	14.6%	85.4%

表1 住生活に関するアンケート

#### (2) 目指す生徒像

- ・衣生活、住生活に関する基礎的な知識及び技能を身に付けた生徒
- ・社会の変化に対応し、生活の中で発見した課題を主体的に解決できる生徒
- ・持続可能な社会の実現に向けて、衣生活、住生活をよりよくするために工夫し、創造し実践できる生徒

#### (3) 研究仮説

現在の衣生活、住生活を振り返る中で問題発見・課題設定しながら学習を展開することで、基礎的・基本的な知識や技能を活用して、よりよい衣生活、

住生活を営むために主体的に課題を解決し、生活を工夫し創造し実践できる生徒が育つであろう。

### 3 研究内容

#### (1) 指導計画の工夫

衣生活は1年生後半に15時間、住生活は2年生後半に8時間とした。

全時を見通した学習過程	衣生活				住生活			
	フェーズ	時	指導内容	題材ごとの学習過程	フェーズ	時	指導内容	題材ごとの学習過程
解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)	フェーズ1 「衣服の選択」	1	衣生活の問題発見・課題設定	「衣服の選択」の問題発見・課題設定	フェーズ1 「住居の機能」	1	住生活の問題発見・課題設定	「住居の機能」の問題発見・課題設定
		2	衣服の選択	解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動		2	住まいの働き	解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動
		3	TPOと個性	実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)		3	住空間の使い方	実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)
		4	衣服の計画的な活用			4	家族の願いが叶う住まい	
	フェーズ2 「日常着の手入れ」	5	適切な手入れ	「日常着の手入れ」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画	フェーズ2 「安全な住まい方」	5	家族の安全と快適さを考えた住空間	「安全な住まい方」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画
		6	洗濯と洗剤	解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)		6		解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)
		7	衣服の選択			7	自然災害への備え	
	フェーズ3 「布を用いた製作」	8	作品計画	「布を用いた製作」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画	8	これからの住生活		
		9~13	作品製作	解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)				
		14	作品評価					
			15	これからの衣生活				

#### 家庭地域での実践

※第2学年で学習する保健体育の「自然災害による障害」と関連付けた。

表2 学習過程と題材の指導計画

題材の指導計画は表2に示した。衣生活の全15時間を衣服の選択、日常着の手入れ、布を用いた製作について、住生活の全8時間を住居の機能と安全な住まい方について、一連の学習過程により、健康・快適・安全の視点で題材を貫き、課題の解決に向けて主体的に考え構想したり、表現したりして、深い学びの実現を図れるようにした。

#### (2) 授業実践の工夫

衣生活、住生活の指導内容を健康・快適・安全の視点で全時を捉え、学習過程に基づき問題発見、課題設定、家庭や地域での実践に重点をおいた。

#### <衣生活>

##### 第1時「衣生活の問題発見・課題設定」

###### <目標>

健康・快適で持続可能な衣生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定することができる。

###### <評価規準>

健康・快適で持続可能な衣生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定している。【思考・判断・表現】

###### <学習内容・学習活動>

- ・自分自身の生活を振り返り、衣生活について問題を見いだす。
- ・衣服の一生について、『衣生活シート【課題設定編】』で確認し困っていることを記入する。
- ・どんな衣生活にしたいか考え、ワークシートに理由とともに書き、課題を設定する。

生活の問題発見・課題設定

##### 第2時 ~ 第14時

##### 第15時「これからの衣生活～私たちの実践～」

###### <目標>

健康・快適で持続可能な衣生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現することができる。

###### <評価規準>

健康・快適で持続可能な衣生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。【思考・判断・表現】

###### <学習内容・学習活動>

- ・これまでの学習を振り返り、よりよい衣生活を営むためにできることを考え、私たちの実践シートにまとめる。
- ・4人班の形になり、「自分でやること」と「家族に伝えること」を、それぞれ4つの項目ごとに考え、ワークシートに記入する。
- ・「自分でやること」と「家族に伝えること」をもとに、よりよい衣生活を営むための「社会に向けての提言」を考え、発表する。

実践活動の評価・改善、家庭・地域での実践(準備)

『衣生活シート【実践編】』を家庭に持ち帰り家族で話し合うことで、それぞれの家族がよりよい衣生活を送ることができ、いつでも活用できるシートを作成し、実践する。その活動を通して、家族や地域のことを考え、自分の衣生活をよりよいものにしていく。

<住生活>

第1時「住生活の問題発見・課題設定」

〈目標〉

健康・快適・安全な住生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定することができる。

〈評価規準〉

健康・快適・安全な住生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定している。

【思考・判断・表現】

〈学習内容・学習活動〉

- ・新型コロナウイルス感染防止対策にともなう住生活の変化について考え、住生活課題発見シートに記入する。
- ・自分の一日の生活行為の目的や、それが住まいのどこで行われているか考え、住生活課題発見シートに記入する。
- ・これからどのような住生活にしたいか、課題を設定する。

第2時 ～ 第7時

第8時「これからの住生活～家族の安全計画～」

〈目標〉

健康・快適・安全な住生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現することができる。

〈評価規準〉

健康・快適・安全な住生活を送るための課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。【思考・判断・表現】

〈学習内容・学習活動〉

- ・これまで学習してきたことをもとに、住空間の悩みを解決する方法を班で考え、発表する。

- ・家族の健康・快適・安全に着目して、これからの生活を展望し、学習してきたことと現在の生活を関連付けて考える。
- ・ワークシートに記入してきた住空間整えコーナーを見ながら、「自分でできること」「家族に伝えること」の内容を整理し、考えを深め、生徒一人一人が『住まいの安全計画』を作成する。
- ・班やクラスで『住まいの安全計画』の内容を発表し、友達の意見を参考に追記する。
- ・『住まいの安全計画』を家庭に持ち帰り、家族で話し合うことで実践につなげる。

『住まいの安全計画』を家庭に持ち帰り、家族で話し合うことで、それぞれの家族が危険を回避でき、いつでも活用できる『住まいの安全計画』を作成し、実践する。その活動を通して、家族や地域のことを考えて、自分の住生活をよりよいものにしていく。

(3) 教材・教具の工夫

① ワークシートの作成

よりよい衣生活、住生活を目指すために、全時を見通して、家庭や地域での実践やSDGsと関連させた「問題発見・課題設定から家庭や地域への実践シート」を作成した。

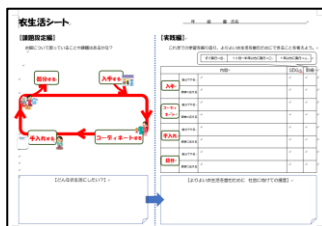


図3 衣生活ワークシート



図4 住生活ワークシート

② ICTの活用

問題発見・課題設定をやすくするために、題材を見通すことができる動画やプレゼンテーションソフトを活用した。

## 4 SDGsの取り組み



### (1) 衣生活題材例

時	第5時 「適切な手入れ」	第7時「衣服の洗濯」
学習内容	SDGs12「つくる責任つかう責任」を意識し、衣服の大量生産、大量処分をしている日本の現状を知り、衣服を大切に扱う方法について考える。衣服の手入れ方法について調べ学習を行った。	SDGs14「海の豊かさを守ろう」を意識し、材料や状態に応じた日常着の洗濯による手入れについて考える。洗濯に使われる水の量や洗剤の仕組みについて映像や実験を通して知る。環境保護の面から考える視点ももつ。



### (2) 住生活題材例

時	第5,6時「家族の安全と快適さを考えた住空間」
学習内容	SDGs3「すべての人に健康と福祉を」を意識し、家庭内の危険な状態や状況に着目して、事故の要因ごと分類することを通して、住空間を安全な状態に整える必要があることについて課題意識をもつ。調べ学習を通して家族に応じた安全な住空間の整え方を理解する。

## 5 成果と課題

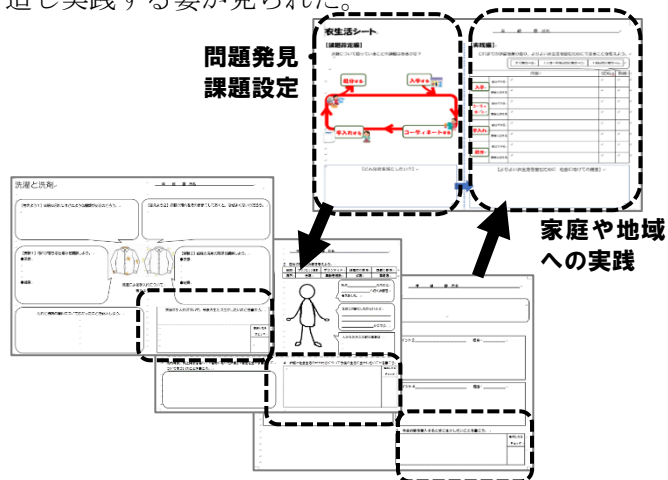
### (1) 成果

#### ① 指導計画の工夫

「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育むために健康・快適・安全の視点で題材を貫き、一連の学習過程を繰り返す授業を展開することで、学習のねらいに向かって内容を深めることができた。また、具体的な日常生活から課題発見・設定することで解決したいという意欲を高め、主体的に解決しようとする姿が見られた。さらに、各題材「衣服の選択」「日常着の手入れ」「布を用いた製作」「住居の機能」「安全な住まい方」について問題解決的な学習を繰り返すことで、深い学びにつなげることができた。

### ② 授業実践の工夫

課題解決に向けた一連の活動において基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて衣生活、住生活をよりよくし、工夫し創造し実践する姿が見られた。



### ③ 教材・教具の工夫

#### ア ワークシートの作成

毎回の授業のワークシートに「家族に伝えよう！」欄と、取り組み状況を確認できるチェック欄を設けたことで、授業で学んだことを家族と共有し、家庭で実践することができた。さらに、最終時で作成する『衣生活シート～実践編～』や『住まいの安全計画』を家庭に持ち帰り、家族と話し合い、自分も家庭生活や地域、社会を支える一員として、よりよい生活になるよう、積極的に取り組むことができるようになった。また、最終時のワークシートにSDGs欄を設けたことで地域や社会に視野を広げることができた。

#### イ ICTの活用

衣生活では、持続可能な社会を目指し、SDGsに触れながら題材を見通すことができるプレゼンテーションを活用した。住生活では、新しい生活様式での課題にも注目できるように、コロナ禍での住生活の変化の動画を導入で取り入れた。その結果生徒は視覚的に捉えることができ、問題を発見しやすくなり、具体的に課題を考えられるようになった。

#### (2) 課題

- ・問題発見から課題を設定するための教材教具の工夫が必要である。課題発見・実践シートや動画やプレゼンテーションを更に検討していく。
- ・評価場面や評価方法を更に精査していく。